

第2回薬剤耐性(AMR)対策普及啓発活動表彰

茨城県の畜産におけるAMR対策

茨城県県北家畜保健衛生所・藤井勇紀

<活動概要>

茨城県の養豚現場における抗菌剤使用量と豚由来病原細菌の薬剤耐性獲得状況の実態調査をしました。調査結果の養豚関係者への周知及び、慎重使用の啓蒙を合わせて行うことで、慎重使用の徹底と第二次選択薬使用量の削減を推進しています。また、豚由来病原細菌の薬剤耐性の傾向を知ることで、各菌種に有効な第一次選択薬の迅速な選択ができるため、慎重使用実施に向けての積極的な指導が可能となりました。

<活動内容>

① 抗菌剤の使用実態調査

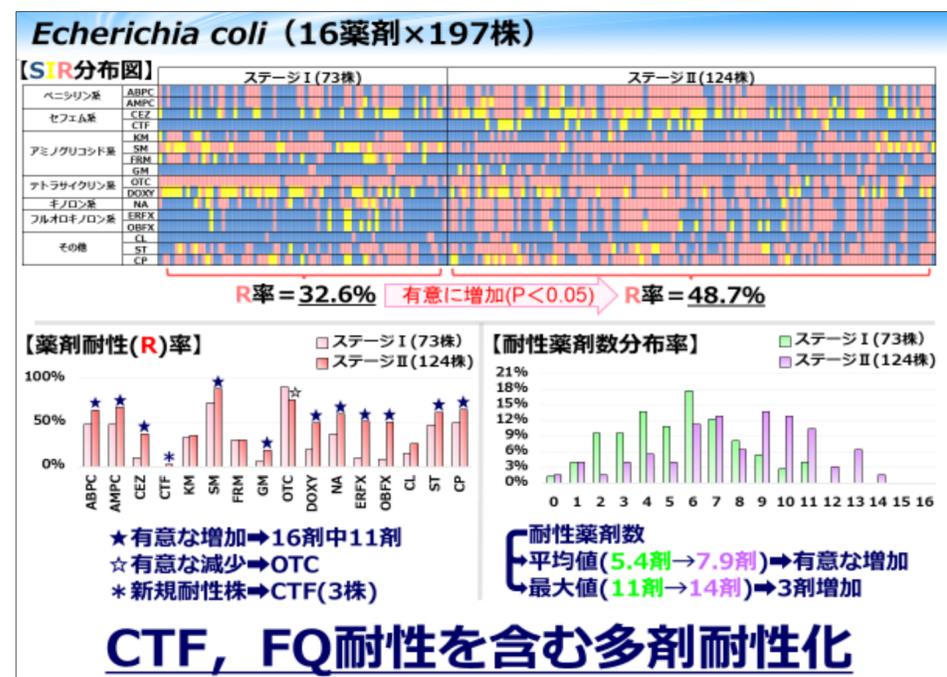
動物用医薬品指示書から、データを集計したところ、本県の養豚密集地区では、全国と比較し、豚1頭当たりの抗菌剤使用量が多く、限られた農場においては、第二次選択薬の購入量が多いことが分かりました。

② 豚由来病原細菌の薬剤耐性獲得状況

平成6～28年の23年間に分離された、豚由来病原細菌8菌種709株の薬剤感受性試験を実施しました。大腸菌、サルモネラ菌の多剤耐性化、グレーサー病菌、連鎖球菌、スス病菌のフルオロキノロン耐性獲得、豚胸膜肺炎菌のフロルフェニコール耐性獲得など、多くの菌種で薬剤耐性獲得が進行していることが明らかとなりました。

③ 調査結果の周知、慎重使用の啓蒙

AMRに関する調査結果や抗菌剤慎重使用に関わるリーフレットの作成・配布するとともに、関係者への説明会を開催しています。



大腸菌の薬剤耐性獲得状況



臨床獣医師、養豚農家に向けたAMRに関する説明会